

村田製作所グループ「CSRレポート2008」を読んで



神戸大学大学院
経営学研究科教授
國部 克彦 氏

グローバル企業の視点における編集方針

村田製作所の売上高の75%が海外売上高です。グローバル企業としてのレポートにふさわしく、今年は国内従業員のみならず、海外従業員も良く見える編集になっています。ステイクホルダーとしての従業員に視点を当てたレポートは、他のステイクホルダーと同様に従業員を重視する村田製作所の姿勢が現れています。今後は、グローバル面でのCSR活動の考え方を示して、体系化していく努力が求められます。

「人のものづくり力」の強化

今年のトップコミットメントでは、「電子部品を供給して、豊かな社会に貢献する」と述べられています。このコミットメントを達成するには、ものづくり力の強化が欠かせません。今年の特集には、「人がつくる品質」を高めるために、「人のものづくり力」の強化の取り組みが記載されています。現場の従業員が中心となった「生産革新活動」、「マイスター制度」、「ものづくり道場」などにより、ものづくりの原点である「人づくり」を重視する村田製作所の姿勢が強く読み取れ、高く評価できます。今後は、このような活動をCSRとしてどのように位置づけるかが鍵になると考えられます。

環境マネジメントの進化

特集や環境報告を通じて、村田製作所が目指す環境経営が良く理解できます。2007年度は、ISO14001のマルチサイト認証へ切り替えも完了され、全社挙げて環境マネジメントシステムに取り組もうとする強い意欲が感じられます。現在の目標の多くは原単位ベースですが、今後は、地球環境の超長期的な状態を考慮に入れて、総量ベースでの削減目標の立案も視野にいれた取り組みが望まれます。

CSRのステップアップ

村田製作所は、CSR推進室を組織し社長を委員長とする「CSR推進委員会」が設置され、CSR経営の推進体制が整備されました。「人びととムラタ」では、重要なステイクホルダーを特定し、それぞれのステイクホルダーに対する取り組みが分かりやすく報告されています。今後は、ステイクホルダーエンゲージメントやレポートを読む会などの双方向のコミュニケーションを通じてステイクホルダーの関心事を把握し、その重要度に応じてステイクホルダーへの取り組み結果を開示することが、CSRのステップアップには必要と考えられます。これらの取り組みをマネジメントに落とし込むためには定性的でもよいので目標を設定され、達成度を評価することが良いと考えられます。村田製作所のCSRのさらなるステップアップを心より期待します。